

令和7年度 学校評価書（共通） 後期

校名 宇和島市立清満小学校

1 自己評価書

教育目標	ふるさとを愛し 心豊かによく考え 心身ともにたくましい清満っ子を育てる					
基本方針	児童一人一人の可能性を引き出す教育実践に努め、家庭・地域と密に連携した「地域ぐるみの教育」により、心身ともに健康な児童の育成を目指す。					
本年度 重点目標	○「明るく、心豊かな子」を育む教育の推進〈知〉 ○「礼儀正しく、よく考える子」を育む教育の推進〈徳〉 ○「心身ともに健康で、たくましい子」を育む教育の推進〈体〉 ○「地域ぐるみによる清満っ子の育成」の推進					
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査 及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成	A	B
				・具体的な対策の実施	C	
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート	C	B
				・保護者アンケート	B	
			ねらいを明確にした分かる授業を行った。	・児童生徒アンケート	A	A
				・教師アンケート	A	
			一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク等)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート	A	B
				・保護者アンケート	D	
	③	家庭学習の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・児童生徒アンケート	A	A
				・教師アンケート	A	
				・保護者アンケート	B	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・児童生徒アンケート	A	C
				・教師アンケート	C	
				・保護者アンケート	D	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・児童生徒アンケート	C	A
				・教師アンケート	A	
				・保護者アンケート	A	
(成果と課題) ○家庭学習については、児童の自己評価にも高まりが見られ、効果的な働き掛けができていると言える。 ●調査の結果を組織的に生かし切れていない。 ●教員は一人1台端末を活用して児童の充実した学びにつなげていると評価しているが、保護者の捉え方とはずれがある。 ●図書委員会を中心とした全校的な活動や学級指導、保護者を巻き込んだ家庭読書の呼び掛け等、様々な手立てを重ねてきたが、読書活動については、向上的変容が見られない。						
(改善策等) ・調査結果の分析を基にした学年間の系統性のある授業改善を行う。 ・一人1台端末の活用の様子やその効果について、保護者に情報発信する。 ・これまでの活動の一つずつ評価・分析し、見直しを図る。						
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	D	B
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	A	
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	A	
	③	関係機関との連携	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	D	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	A	
	④	自己肯定感 等	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	A	
	④	自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にを行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	A	A
				・児童生徒アンケート	A	
・教師アンケート				B		
・児童生徒アンケート						A
(成果と課題) ○授業や行事等を通して、児童が自信を持つ場面が増え、自己肯定感・有用感が高まった。 ●生徒指導体制に課題(規範意識の向上、いじめ防止・発見、関係機関との連携)がある。						
(改善策等) ・生徒指導に関するミニ校内研修を定期的に行い、個々のスキルアップを図る。 ・学級や児童個々の現状に対応・支援できるような生徒指導体制に改善する。 ・関係機関について保護者向けに情報提供する機会をこれまでより増やす。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート	B	B
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	A	
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	B	B
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	B	B
(成果と課題) ○状況に応じた組織的な取組、保護者や地域の理解・協力により、時間外勤務が大きく減った。 ○地域学校協働活動推進員やスクール・サポート・スタッフによる支援体制が整っており、業務改善につながった。 ●相談や協力が双方向になっていないと感じている教職員がいる。						
(改善策等) ・学校全体を見詰めながら、一人一人が組織の一員であることを再認識しつつ、視野を広げた仕事の進め方に努める。 ・職員室でのコミュニケーションをより密にし、互いに声を掛け合ったり、日常の中でも情報共有が図られたりする環境づくりを管理職が中心となって進める。						
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	B	B
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	B	
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	A	
(成果と課題) ○地域学校協働活動が軌道に乗っていることもあり、改めて全体に図ったり、周知したりしなくてもスムーズに活動を進めることができた。 ●上記の反面、新たな提案等が生まれにくい状況がある。						
(改善策等) ・学校運営協議会委員や協議内容等の見直しを図る。 ・学校運営協議会による協議の場には、内容等に応じて様々な教職員が参加するようにし、当事者意識を持った取組になるようにする。 ・学校や関係機関には、家庭等からの相談窓口が様々なことを改めて知らせ、学級担任だけが対応することのないように努める。 ・教職員が地域等に出向いたり、保護者と交流したりする機会を積極的に設け、非公式な場でのコミュニケーションも大切にし、関係性を深めていく。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満